



地上局を設置するJAXAの職員

た航空機の飛行方法「衛星航法」の確立を目指し、各種実験を展開している。今回は航空プログラムグループ「航法技術セクション」などの8人が来町した。

MUPALは全長、全幅とも約17メートル、とち町航空港

計測システム 実証実験展開

大樹でJAXA

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は26日から、大樹航空宇宙実験場で、多目的実証実験機「MUPAL」を使用した計測システムの実験を行っている。地球測位システム(GPS)信号のデータを取得するのが目的で、大樹では初めての実験。

JAXAは、GPSを使っ

の発着で、同実験場内の滑走路高度数十メートルまで降下してGPS信号を取得。同時に滑走路付近に設置した地上局でも同信号を受信し、今後、それぞれのデータを解析する。実験期間は30日までで、少なくとも4回のフライトを予定している。

同セクションの辻井利昭リーダーは「大樹は地上局を自由に設置できるだけの広い土地がある。時間にもゆとりがあるので実験がやりやすい」と話していた。(佐藤圭史)